

令和 6 (2024)年度 事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで)

学校法人 宮 崎 学 園

幼保連携型認定こども園

宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園・清武みどり幼稚園

1 はじめに

令和 4(2022)年度より両附属園では、新たな理念である「こどもから始まる みどりから始まる ～生きる根っこを育む保育～」を教育・保育目標に掲げ、子ども主体の教育・保育に着手してきた。

改革の3年間を通して、“こどもがまんなか”となる子ども主体の保育を営むためには、子ども理解が基本となり、子どもの声に耳を傾けることが出発点であることを学んだ。その基本の上に、“ひと・もの・こと”の環境を整え、子どもの姿から教育内容・方法を構築することが必要であった。また、日本知育玩具協会の3年間の保育環境改善プログラム最終年度であり、その教育・保育の効果についても検証する年となった。

みどり幼稚園では、ソニー教育財団 2024 年度教育助成論文に応募し、ソニー幼児教育支援プログラム奨励園に選定された。受賞した実践研究論文『『なんで？ふしぎ！だいはっけん!!』～五感で感じ、表現する実体験のなかで～』は、子どもの興味・関心から展開する連続性のある保育実践であり、今後も両こども園での保育を進めるうえで励みとなる受賞であった。

清武みどり幼稚園では、保育内容の充実に加え、Instagram で子どもの様子を随時発信することに力を入れた。この1年間で園児数が25人増加し、4年目を迎えた今、ほぼ定員を満たすことができた。

両園で取り組んだ改革の3年間を終え、子どもの声に耳を傾ける「子ども主体の保育」のスタート地点に立っている。毎年異なる子どもたちと先生方が相互に影響し合いながら、その年度ごとの充実した保育を実践していくことを今後も目指していきたい。

2 事業計画及び取組内容

事業計画	取組内容	達成状況・課題
(1) 21 世紀型教育・保育の実現	①21 世紀型教育・保育導入からの2年を検証しながら、さらに進展した保育のあり方を究明する。 ②国や全国の幼児教育・保育の動向についての、情報収集に努め、最先端の教育・保育を行う。必要に応じて先進地視察を行う。 ③年齢別年間指導計画や個別記録などの各種計画、記録をさ	① みどり幼稚園では、令和6年11月21日～27日までの5日間「子どもの遊びを通した育ちを支える保育の環境とは」～変えたこと・変わっていったこと・変わらないこと～をテーマに0歳児から5歳児の全クラスを対象として公開保育を実施した。県内外から5日間で延べ120人の参加があった。また、みどり幼稚園ではソニー教育財団 2024 年度教育助成論文に応募し、ソニー幼児教育支援プログラム奨励園に選定された。 ・みどり幼稚園では2月に幼保連携型認定こども園教育・保育要領自己評価を行った。 ② 5月に日南市：あがた幼稚園（2人）、12月にイタリア：レッジョエミリア市の保育園、モンテッソーリ園（2人）、3月に東京：お茶の水女子大学（13人）・埼玉：こども村（3人）の先進地視察を行った。 ③ これまでの月案・週案・個別記録を検証し、書式を見直し、両園ともに対話型指導計画新

	らに精査していく。 ④ 目指す教育・保育の実現のために必要な絵本や玩具、園庭等の環境整備を順次進めていく。	書式に着手する。 ④ 絵本、玩具等を追加した。みどり幼稚園では、3歳未満児用砂場、生き物の観察ができるビオトープを設置した。清武みどり幼稚園では、植樹や里山の雰囲気を感じられる築山が完成し園庭環境を整えることができた。
(2)教育・保育環境の充実	① 保育室におけるコーナー保育を発展する。 ② 園庭自然環境を整備（こどもの気づきを促す、お庭づくり）する。 ③ 多様な園外保育を実施する。（梅ちぎり、芋掘り、みかん狩り、施設見学、園周辺散策等） ④ 特色ある教育・保育活動を推進する。（英語であそぼう、音であそぼう、ボールで遊ぼう） ⑤ クラスや学年、縦割り等の多様な集団での活動を推進する。 ⑥ 異年齢保育 2 年目の強みを基盤に発展する。【清武みどり】 ⑦ 自然事象や動植物に触れる機会や環境を整備する。 ⑧ サークルタイムなど子どもと対話し、子どもと一緒に考える時間の充実を図る。	① 全クラスに玩具を統一して配置し、製作コーナー等を追加した。みどり幼稚園では室内（ホール）で楽しめる運動遊具やプッキー（自転車）を導入した。清武みどり幼稚園でも室内用遊具を購入し、サーキット遊びを楽しんだ。 ② みどり幼稚園では菜園にて野菜の成長の観察、収穫したものを食べるなど五感をつかった実体験ができた。生き物の生態が観察できるビオトープを設置した。清武みどり幼稚園では、築山があることにより全年齢の子どもたちがそれぞれに五感を使って豊かな体験をしている。 ③ 四季を感じられる多様な園外保育を計画し楽しむことができた（梅ちぎり、短大周辺散策、海洋高校魚飼育施設見学、大淀学習館、芋ほり、みかん狩り、科学技術館） ④ 英語で遊ぼう、音で遊ぼう、ボールで遊ぼうを予定通り実施した。 ⑤ 職員同士で連携をとり合い、お互いのクラスを訪問したり、一緒に園外保育に出かけたりなど工夫されていた。交流を重ねるごとに相手を思いやる気持ちが芽生えてきた。 ⑥ 清武みどり幼稚園では、3・4・5歳の異年齢で毎日過ごす中で様々な交流が起こり、子どもたちにとっては経験の広がる場面が多くあった。満3歳児も職員を増やすなど丁寧な対応を行うことで、同クラスで落ち着いて過ごすことができていた。 ⑦ 園外保育や園庭の環境（花壇・菜園・植樹・ビオトープなど）を通して自然事象や動植物に触れる機会や環境を整備した。 ⑧ 朝の集まりや昼食配膳中の時間を使用し、遊びの振り返りや、クラスで考えておきたいことなど、子どもたちと対話を通して一緒に考えることを大事にしてきた。 <課題> 年度途中で採用された常勤・非常勤に玩具の

		取扱いや保育室内の環境構成についての説明が不足している。コーナー保育の内容についてはクラスごとに差が見られるため、研修時間の確保、工夫が必要である。 保育室の環境構成について、クラスで子どもの興味・関心の捉え方に差がみられた。両園ともに、これまで取り組んだ遊びや体験させたいことを遊びの年表として作成、掲示する。各職員が子どもの姿を通して保育者の思いのつまった保育が実践できるように活用してもらいたい。
(3) 健康・保健・安全面に配慮した教育・保育環境の充実	①保育環境の整備と危機管理体制を充実する。 ②令和 5 年度に作成した“緊急時事業継続体制 (BCP)”の実効性を高める。 ③交通安全教室を実施する。 ④毎月の避難訓練及び安全点検を実施する。 ⑤感染予防対策を徹底し、清潔の保持及び保護者へ情報を提供し、共有を図っていく。 ⑥園医による内科検診及び歯科検診を実施する。 ⑦学校薬剤師による定期検査適宜指導及びエビペン研修を実施する。	①②③④⑤⑥⑦ 年間実施計画のもと保育環境の整備や危機管理について職員での訓練、研修、日常点検を行った。 避難訓練 12 回、不審者訓練 1 回、交通安全教室 2 回、エビペン研修 1 回、救急救命講習 1 回、内科検診 2 回、歯科検診 1 回、学校薬剤師による定期検査 6 回を実施した。園内、園庭の安全点検 12 回、専門業者による遊具の点検・修繕、宮崎市から感染症についての情報提供を、その都度保護者にメールで知らせ、予防対策や注意喚起を行った。 12 月に業務継続計画 (BCP) を改訂し、危機管理体制を強化した。
(4) SDGs	①食に関する指導を充実する。 (SDGs 目標 2 関連)【みどり／清武みどり】 ②保護者と連携し、ペットボトルキャップを収集する。(SDGs 目標 12 関連)【みどり】 ③自然環境についての関心を高める (SDGs 目標 7, 14, 15 関連)【みどり／清武みどり】 ④毎月一回、給食会議を行い、園児の食の実態を把握し、こども園としての食育の充実を図る。	① 一緒に食事をするなかで献立の紹介や食材にふれる機会をつくった。 ② ペットボトルキャップを収集することができた。 ③ 日常の生活で水道や電気などを無駄に使わないことや大事に使用することで自然環境の保護につながる話しをした。 みどり幼稚園では 1 月にラピスセミコンダクタ株式会社の「幼児向けエコ教育活動」を実施した。 ④ 毎月給食会議 (年 12 回) を実施し、子どもに安全でおいしい食事が提供できるように園と業者で話し合いを行った。 <課題> 給食会議で伝達したことが周知されず繰り返

		されることがあったため、給食会議事録の中に記入もれがないか再度確認し業者としっかり連携をとることが必要。
(5) 生きる根っこを育てる教育・保育環境の充実	①愛着関係をしっかりと形成し、基本的な信頼に基づき、日常を過ごす。 ②動植物や季節等、五感を使って自然の変化に気づける場を設定する。 ③園児一人一人の気づきを表現できる場を設定する。 ④園児一人一人が遊びを工夫する場を設定する。	① 3歳未満児においては育児担当保育の日課を丁寧に行うことで愛着形成ができ、子どもたちと信頼関係が構築された。3歳以上児では、子どもとの対話を大事にしながら子どもの人権の尊重や子どもの声を聴く保育に取り組むことができた。 ② 植物の栽培・収穫（稲、野菜）一連の生長過程を楽しく観察できる菜園や花壇に草花を植え色水遊びや種あつめができる場をつくった。また泥んこあそび、水あそびなどその季節ならではの遊びを取り入れることで学年を超えて遊びが広がるきっかけとなった。 ③④ 年長児の参観日については、子どもと一緒に内容を考えた。遊びの中でみんなが一番面白かった遊び（鬼ごっこ・クイズ）を保護者と一緒に楽しみ、玩具で作成したお気に入りの作品を紹介するなど、自分なりの言葉で思いを伝える場面をつくった。子どもの成長を感じとれる時間となった。 清武みどり幼稚園では、屋内で3歳以上児が知育玩具以外に自然物（ツマグロヒョウモンチョウの羽化、ダンゴムシ迷路）のコーナーを設けて観察し、子どもの体験を広げた。園庭では色水コーナーを設け、積んだ花の種類による色の変化を観察したり、友達と比べたりして楽しんでいた。
(6) 附属園としての教育実習・保育実習の充実	①短大・大学の保育者養成校と連携し、子どもが主体となる連続性のある教育・保育を実践し、学生の実習の充実を図る。 ②実習記録において、時系列、ドキュメンテーション、エピソード記録等を導入する。	① ② ドキュメンテーション記録については、子どもの姿をよく捉えている学生と、そうでない学生がいた。実習最終日に行う振り返り（ワールドカフェ式）では、グループごとに意見を出し合うことで新たな気づきが生まれた。
(7) 「人材育成制度 A&A チェック」活用による教職員の資質向上	①教職員の職能向上や日々の保育の充実を図るための職員との年2回の個別面談や自己評価による振り返りを実施する。 ②年2回、保育者自己評価チェ	① ② 年2回の個別面談を実施した。保育改革に取り組み3年が経つ。それぞれに子ども主体の保育について思いを持ち取り組んできたことが分かった。 人権擁護のセルフチェックリストを継続

	ックリストをつけ、子どもの人権への意識を向上させる。	することで子どもの人権を守り一人ひとりが意識を高められるようにしていく。
(8) 研修参加に対する保育者の意識改革	①職員自らのキャリアアップを図るために必要な研修への積極的参加を推進する。 ②各所属団体や日本知育玩具協会の研修など、研修に関する情報を得られるようにする。 ③職員会議等、研修内容について職員間で共有できる場を設けることで使命感をもって学ぶことができるようにする。	①【みどり幼稚園】 県キャリアアップ研修 27 回、幼稚園連合会研修 3 回、幼稚園協会研修 6 回、認定こども園協会研修 4 回、私立幼稚園幼児教育研究機構「ゆたかなまナビ」35 回、国際大学・短期大学 幼児教育・保育センター主催の研修 1 回、附属認定こども園合同研修会 2 回（第 1 回 13 人、第 2 回 12 人）、保育改善プログラム研修 4 回 計 82 回の研修に参加し、全職員キャリアアップに必要な研修を受講することができた。非常勤 4 人もキャリアアップを受講した。 【清武みどり】 県キャリアアップ研修 17 回、宮幼連宮崎市地区会「ゆたかなまナビ」19 回、相模原市幼稚園・認定こども園協会研修 1 回、附属認定こども園合同研修会 2 回（第 1 回 14 人、第 2 回 12 人）保育改善プログラム研修 4 回 計 43 回 ② 玩具のある風景の中、挑戦して達成できた喜び、子ども同士のつながりが育まれたなど様々な姿が見られた。これまで取り組んできた成果は、子どもの姿から答えとなり表れるものだと理解できた。また「育児担当保育」では日課を定着させていくことで保育者との愛着形成が育まれ 3 歳未満児が安定した姿で過ごしていた。 ③ 職員会議で研修の報告を行った。
(9) 園内研修の推進	①園としての組織力や教育力・保育力向上のための合同研修会や園内研修を実施する。 ②保育環境改善プログラム 3 年目の研修を行う。 ③可能な範囲において非常勤保	① 大学・短大の幼児教育・保育センター主催の研修 MIYAGAKU こどもフォーラムが開催され、8 人(みどり 6、清み 2)が参加した。国の動向を捉えられる充実した研修となった。 新しく指導計画の書式を変えるにあたり、これまで取り組んできた保育についての振り返りを行い、子どもの声を聴く保育へとつながる計画や記録について園内研修を実施できた。 ②③ 保育環境改善プログラム年間 4 回実施した。(第 1 回：積み木遊びの基礎 第 2 回：

	育者への参加を呼びかけ、共通理解を得られるようにする。	保育と構成遊び 第3回：公開保育でのセミナー「おもちゃと絵本」 第4回目：保育家具と空間構成） 非常勤保育教諭を含めて、両園合同研修を年間2回実施できた。
(10) 子育て支援	①乳幼児期の教育・保育センターとしての役割を果たす。 ②一時預かり（幼稚園型／預かり保育）の充実をめざす。 ③一時預かり（一般型）、誰でも通園制度への対応を図る。【清武みどり】 ④未就園児の体験教室（にこにこルーム）や子育て相談を定期的に開催し、内容の充実を図る。 ⑤看護師を配置し、体調不良児対応型保育を実施する。 ⑥満3歳となる1号認定クラスの募集及び定着をはかる。	①④ にこにこルームを年間10回開催し、180組（みどり）167組（清武みどり）が参加した。保育体験と園見学案内や子育て相談に応じた。にこにこルームは、次年度の入園希望児へ繋がる大事な役割を担っている。 ② 預かり保育の申込みが平均してみどり幼稚園は1日100人（3歳～5歳児）、清武みどり幼稚園は53人ほどになる。安全面に配慮した職員配置が求められる。 ③ 申請準備中。 ⑤ 両園で令和6年度より病児保育事業の「体調不良児対応型」に着手できた。看護師が常駐し対応するため保護者から安心だという言葉が聞かれた。 ⑥ 満3歳児の入園は、みどり幼稚園では4人、清武みどり幼稚園では9人が年度内に入園した。
(11) 施設・設備の改善充実・自己点検評価	①安全な環境で安心して教育・保育ができるよう施設・設備を整備していく。 ②園運営全般についての自己点検評価を行い、外部評価委員会を開催し、振り返りの機会を持つ。	① 職員で園内や園庭の安全点検を毎月実施し危険な場所、修繕が必要な場所の確認を目視で行った。また技術員が常駐することにより施設・設備の整備や園内美化を努めることができた。園庭遊具については専門業者の点検、修繕を依頼した。 滑り台の修繕及び、鉄棒の高さ調節が完了した。 ② 令和5年度自己点検評価を行い、外部評価委員会を令和6年12月23日（みどり）、令和7年3月24日（清武みどり）に実施し振り返りの場をもつことができた。 2月には幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価を実施した。【みど

	③保育の充実をめざし、公開保育を実施する。	り幼稚園】 ③ 令和 6 年 11 月 21 日～27 日の 5 日間で公開保育を実施した。約 120 人の参加があった。 【みどり幼稚園】
--	-----------------------	--